2021 年度 海洋教育パイオニアスクールプログラム (地域展開部門)

実践記録集

北海道厚岸翔洋高等学校

目 次

202	1 年度	実践概要		•••••	2
202	1 年度	「海洋教育パイオニアスクールプロ	コグラム」成果発表会資料	•••••	4
202	1 年度	年間学習指導計画・シラバス	水産・水産海洋基礎		1 1
			水産・総合実習		1 5
			水産・漁業		1 7
			水産・課題研究		2 3
			総合的な探究の時間		2 7
202	1 年度	学習指導案	水産・水産海洋基礎		2 9
			水産・総合実習	•••••	3 2
			水産・課題研究		3 5
「淮	5 洋教育	育パイオニアスクールプログラム」	完了時自己評価書		3 8

学校名

北海道厚岸翔洋高等学校

採択活動名

地域の産業や環境特性を通して、海の仕事の魅力を知る

~厚岸湾の魅力と可能性を知る~

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 調査研究・商品開発	3	水産
2. 漁業実習	1, 2, 3	水産
3. 講話	2	水産

取り組みの概要

1 目的

地域の環境特性を理解し、地域の課題解決に向けた探究的な学習を行うことで、情報を収集し、整理・分析する能力を身に付けさせるとともに、身に付けた知識を活用し、他者と協働することにより具体的な課題解決を図る姿勢及び能力を身に付けさせることをとおして、持続可能な地域社会の担い手を育成すること。

2 取り組み概要

・小学生、中学生との地引網による生物及び環境調査実習

海洋資源科生産コース 2 年生 10 名 (総合実習) が、令和 3 年 7 月 13 日厚岸町立真龍小学校 3 年生 35 名、10 月 12 日厚岸町立厚岸中学校 1 年生 23 名、10 月 19 日厚岸町立厚岸小学校 5 年生 15 名と一緒に厚岸町の干潟にて実施。本校生徒が地引網と採集生物について児童生徒に説明した。

カキ養殖実習

海洋資源科生産コース2年生10名(総合実習)が、地域の地場産業の一つであるカキ養殖について、 かご替えや設掃除など通年にかけて取り組んだ。

・水産生物の調査及び海産物を活用した商品開発

海洋資源科3年生24名(課題研究)が、班ごとに水産に関する調査研究や商品開発に取り組んだ。 未利用水産資源の活用を行った。

• 沿岸漁業実習

海洋資源科2年生10名(総合実習)、3年生16名(課題研究・総合実習)が、地域の中心的な漁法である刺網やかご等の漁業実習を行った。

・小・中・高クリーン大作戦

厚岸小学校、厚岸中学校、本校の児童生徒275名が14班に分かれて厚岸町内のゴミ拾いを行った。

• 出前授業

海洋資源科3学年3名(課題研究)が、12月22日厚岸町立真龍中学校と厚岸中学校の全校生徒に対し、課題研究で取り組んだ成果を発表した。

・地元漁業者による実技指導

海洋資源科生産コース 2 学年 10 名 (総合実習) が、カキやアサリの養殖について地元の漁業者から 最新の技術を特別に教えていただいた。

活動中の写真



児童・生徒が力をあわせて網を引く



高校生が児童に対して魚の説明



厚岸町立真龍中学校で発表

2021年度「海洋教育パイオニアスクール プログラム」全道成果発表会



北海道厚岸翔洋高等学校 日向 勇樹·箭内 廉三



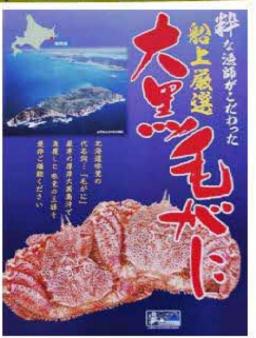
私たちのまち、厚岸町は・・・





私たちのまち、厚岸町は・・・





私たちのまち、厚岸町は…

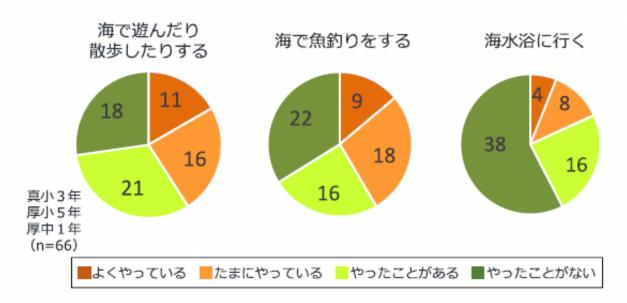


- ・人口約10,000人
- ・天然の良港, 厚岸湾
- ・就労者の5人に1人が漁業
- ・全国的に知られた水産物



海とともに生きる,漁業のまち

厚岸町の子どもたちは・・・





意外にもあまり海に親しんでいない

私たちの活動計画(3年目)

地域の海の課題:明日の漁業を支える人材の育成

地元の海の素晴らしさをもっと伝える



地域の水産業について学び, 伝える

● 新型コロナウイルス流行により,予定通りには進まなかった

真龍小学校3年生との活動





地びき網による魚類採集

干潟の底生生物採集

実施日:令和3年7月13日

場 所:役場裏の干潟

水 深: 0-1.0 m

厚岸中学校2年生との活動



漁労長の指示の元で

魚の解説も自分たちで

実施日:令和3年10月12日

場 所:バラサン岬

水 深: 0-3.0 m

厚岸小学校5年生との活動



うねりがあり、安全には特に配慮

魚への食いつきが凄い!

実施日:令和3年10月19日

場 所:バラサン岬

水 深: 0-3.0 m

地元漁業者から学ぶ (牡蛎・あさり養殖)



最新の技術を特別に教えてもらった



あさり養殖の仕事を体験した



牡蛎とあさりの養殖について, 地元漁業者から直接教えてもらった

活動のまとめ ①

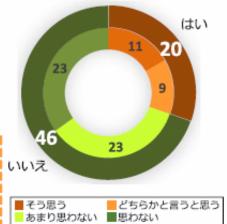
1年目:海の面白さを伝える

2年目: +海の仕事を知る

3年目: +海の仕事を伝える

- ・海が好きな子どもを増やしたい
- ・海の仕事に興味をもってもらいたい

<漁業や海洋関連産業に就きたい>



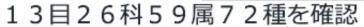


水産を学ぶものの使命として, 今後も地元の海の魅力を伝えたい

活動のまとめ ②

<厚岸湾から得られた魚類>

8	14	梅		84	16
ツメウナギ目	ヤツメウナギ科	カワヤンメ Lethenteron Japonicum (Martens 1988)	スズキ目	ケムシカジカ科	イソバテング Biopoles civitosus (Palas 1814)
ピレエイ目	ヤマトシピレエイ料	ゴマフシピレエイ Tetronarce californica (Ayres 1855)		トクピレ科	アンモリウオ Hypsagonus proboscidalis (Valenciennes 1858)
18	ガンギエイ科	メガネカスペ Barkgraja pulchra (Liu 1902)			カムトサチウオ Occasio dedecardron (Tilesius 1813)
シン目	ニシン科	マイワシ Sarafrops malimostistive (Tempinek & Schlegel 1846)			ヤセサブロウ O. Anserver (Jordan & Hubbs 1925)
		=5/2 Clopes palled Valenciannes 1847			シチロウウオ Brackyopeir rostratus (Tilesius 1810)
√B	⊐ / ₩	ウグイ Triboloden haksnensis (Günther 1877)			ヤギウオ Pallecina barbata (Steindachner 1876)
ュウリウオ目	キュウリウオ科	SSYE Spirinohus Impropilatus (Hikita 1913)		ダンゴウオ科	フウセンウオ Euroicrotromus pacificus Schmidt 1904
		キュウリウオ Osmerus morder denter Steindachner & Kner 1870		クサウオ科	エゾクサウオ Liparis agressiol Putners 1874
		子力 Hypomesus isponicus (Brevoort 1856)		イスズを科	メジナ Girelle punotata Grey 1835
		シラウオ Salangichthya microdon (Bleeker 1880)		ゲンゲ科	ナガガジ Zourous alongatus Knar 1868
ケ目	サケ科	アメマス Salvedrous Inscornaenis Inscornaenis (Paljas 1814)			ヒロクチゲンゲ Bilabria gigantee Anderson & Irramura 2008
		サケ Oncorhynchus kete (Welbeum 1792)			ハナイトギンボ Neozoarceu steindachnari Jordan & Snyder 1902
		サクラマス O. marou marou (Broyoort 1856)		タウエガジ科	フサギンボ Chirolophic Japonicus (Herzenstein 1894)
20	978	スケトウダラ Gastis of electromereness Pales 1814			ガジ Opisthocentrus ocelletus (Teesius 1811)
		マダラ C. macrocaptuske Tilesius 1810			ムロランギンボ //holidapus dydowakii (Steindachner 1880)
		⊐ব্ধ Beginse gracille (Tiesius 1810)			ドロギンボ Associate veriogate indrowitsold Soldatov 1927
50	ポラ科	#15 Mugil caphalus caphalus Linnaeus 1758			ゴマギンボ Stichaeopais nana Kner 1870
ゲウオ目	トゲウオ科	-(1)-의 Gesterosteus aculeatus Linnaeus 1758			タウエガジ Sticheeus nozewei Jorden & Snyder 1902
		4/47FEE Ampitius pungitius (Linneaus 1758)			ナガツカ St. grigogiewi Herzonstein 1890
ズキ目	アイナメ科	スジアイナメ Hassgrammas octogrammus (Pales 1814)			メイメガジ Acantholompanus mackayi (Gibert 1895)
		エゾアイナメ // steden Tilesius 1810		ニシキギンが料	ニシキギンポ PhoSu piota (Kner 1988)
		ウサギアイナメ H. Ingocephalox (Pollex 1810)			タケギンボ Pho. crassispine (Terminok and Schlegel 1845)
	フサカサゴ科	クロソイ Sebastes schlege# Higendorf 1880		ハタハタ科	ハタハタ Arctoscopus japonicus (Steindachner 1881)
		II YAr (U. S. tarczenowskii (Steindachner 1880)		ハゼ科	アカオピシマハゼ Trisbertiger trigonocophelus (GII 1858)
		シマソイ & trivitatus Hilgandorf 1880			△E/VE Gyesnogobius mororanus (Jordan and Snyder 1901)
	ムツ料	ムツ Seambrops boops (Houttuyn 1782)		サ /04	マサバ Scomber aponious Houttuyn 1782
	カジカ科	オニカジカ Enophysys dicornus (Pales 1787)	カレイ目	カレイ科	ヌマガレイ Platichthys staffetus (Palles 1787)
		ギスカジカ Myoxocephalus steller/ Tijesius 1811			ソウハチ Cleistheres pinetorom Jorden & Starks 1984
		シモフリカジカ M. branchi (Steindachner 1867)			サメガレイ Clidodorma aupemireum (Temminek & Schloge 1846)
		オウカジカ M Jack (Cuyler 1829)			マツカワ Verasper moser/ Jordan & Gibert 1898
		トゲカジカ M projerounthroughture (Pales 1814)			ンノガレイ Pleuroneotes quedritubersulatus Pales 1814
		オホージクツノカジカ Microcottus selleris (Olibert 1896)			トウガレイ Pt. pinniferciator Kner 1870
		フサカジカ Povosottus alfei (Jorden and Starke 1904)			スナガレイ Linards purotationimus (Steindachner 1879)
		イトヒキカジカ Argyrocomus zenderi Herzenstein 1892			マガレイ Psaudoplauronactius harzenstaini (Jordan & Snyder 1901
		AD Boys elegans (Steindachner 1881)			クロガレイ Ps. obscurus (Herzenstein 1891)
		カンキョウカジカ Cettus Asrusienusensis Meri 1930	フグ目	カワハぞ科	755/1√F Rudaris eroseles Jardan & Fowler 1902



(地びき網, 魚カゴ, 底刺し網, 底延縄, 一本釣り, たも網, 桁網, 定置網)

活動のまとめ ②

〈厚岸湾から得られた魚類〉



ゴマフシビレエイ Tetronarce californica ・相模湾以北の北太平洋に分布

・採集記録の少ない稀種



ムツ Scombrops boops

- ·成魚は1m超え,深海に棲息
- 分布の北限記録



13目26科59属72種を確認

(地びき網, 魚力ゴ, 底刺し網, 底延縄, 一本釣り, たも網, 桁網, 定置網)

活動のまとめ ②



- ・海水温の上昇
- ・赤潮の発生



地元の海が変わって きているのではないか?

令和3年9月30日 北海道新聞・朝刊

変化する海のモニタリング機能

学科	・コース	海洋	資源科		教科・科		水産	・水	産海洋基礎	教科	斗担任	阪本貴	亮		
<u> </u>	学 年	必修/選択	単	位	授業時数	女	使用教	科書		「水産海	詳基礎」	文部科学省			
	1	必修	4		140	衤	甫助孝	材	なし						
ł	指 導 [目 標	理 (2) 水産 者と (3) 持続	解する 業や こして 記可能が	とともに、 毎洋関連産績 合理的かつ	関連3 業全体 創造的 毎洋関	する技 を広い かに解 関連産業	術を身 ハ視野 決する 業の構	また付けるよう で捉え課題を る力を養う。 ななを目指して	うにする。 :発見し、	水産業や	Dいて体系的・デ P海洋関連産業(D振興や社会貢献	こ関わ	る	
ŧ	旨導上の貿	留意点	・教科	書の内	内容に留まり 習とを効果に	らず, 的にA	最新組み合	かせ	て指導するご	引題を利		伝えること 取り入れるこ	٢		
Ī	评 価 (の割合	(%)						評価	の方	法				
	知識・打	支能	40		座学										
思	考・判断	・表現	30		座学:5	E期表	査や	小テ	スト 実技	:実習技	受業の取得	組状況やレポー	ート提	出	
主体	的に学習に取	なり組む態度	30			座学:授業中の態度を観察 実技:実習中の態度									
						指	導	計	画						
			前 期							名	美期				
月	予	授 業 定	内容	字 実 :	 施	配当	実施	月	予 定	授 第 Ē		·················· 実 施	- 配当	実施	
4	<座学>	<実習>				7		10	水區	産・海洋生物の飼育			16		
	第1章 海のあらまし	オリエンテーション							第3節 とる漁業 水	産物の加工			<u> </u>		
5		海洋実習 				12		11	定期考查 調	III中加小针(#			16		
6	定期考查	水産物の加工				12		12		埋美省の基礎 産・海洋生物の飼育			10		
		水産・海洋生物の採集											1		
7	第2章 水産業と海洋関連産業のあらまし	海洋実習				10		1	第6節 水産物の流通 ロー	-プワークと編網			12		
	第1節 船と暮らし														
8	第2節 水産業の歴史と現状					10		2	第7節 水産物の加工				10		
	宁田老木	人股系が				1			定期考查						
9	定期考查	14) 映来加				15		3	第8節 海洋関連産業				10		
			<u></u> 計			66					】 計		74		

学科・コ	コース	海洋資	資源科	教科	• 科	目		水産・水産浴	再洋基礎(座学・実習	3)			
学纪	年	必修/選択	単位	授業時数	使用	用教科	斗書	「水産海洋基礎」全国	高等学校水産教育研究会編	・海文堂			
1		必修	4	140	140 補助教材 なし								
科(目 0)目標	質・能力を次のとま (1) 水産業や海洋関るようにする。 (2) 水産業や海洋関う。 (3) 持続可能な水産	らり育成することを 関連産業の国民生活 関連産業全体を広い 産業や海洋関連産業	方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業において必要となる基礎的な資 り育成することを目指す。 車産業の国民生活における社会的意義や役割などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付け 車産業全体を広い視野で捉え課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養 業や海洋関連産業の構築を目指して自ら学び、地域の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 連産業の国民生活における社会的意義や役割などについての基礎的・基本的な知識や技術が身についている。								
		的 な	(2) 水産業や海洋原過程を説明する	関連産業に関わるる ることができる。 賃業や海洋関連産業	ぎとして、	水産業を目指し	で海洋	関連産業に関する課題を自ら発見	基本的な知識や技術が身についている 記し、前向きに解決方法を導き、その 対技術を地域の振興や社会貢献に活用)			
評価の観点													
		の 割 合	(%)					評価の方	法 ————————————————————————————————————				
	知識·	技能 	40	座	学:定 	期考	査や	小テスト 実技 : 実 <i></i>	習授業の取組状況や制作 ⁴	勿 			
思	考・判 	断・表現 	30	座学:定期考査や小テスト 実技:実習授業の取組状況やレポート提出									
主体的(に学習に	取り組む態度	30	座学:授業中の態度を観察 実技:実習中の態度									
					学	習	内	容					
月			前 期				月	;	後期				
4	<	座学>	く実習	3>			10		水産・海洋生物の飼育				
第	1章 注	毎のあらまし	オリエンテー	ション				第3節 とる漁業	水産物の加工(缶詰)				
5			海洋実習(漕	艇)			11	第4節 つくり育てる漁業					
								定期考査	調理実習の基礎				
6	定	期考査	水産物の加工(あげかま)			12	第5節 漁業・資源管理	水産・海洋生物の飼育				
			水産・海洋生物の抗	采集(磯採集)									
7 第	52章 水産業	と海洋関連産業のあらまし					1	第6節 水産物の流通	ロープワークと編網				
第	第1節 船と暮らし 海洋実習(抗		:船)										
8 第	第2節 水	産業の歴史と現状	海洋実習(水	泳)			2	第7節 水産物の加工					
9	定期考査体験乗船実				\dashv	3	第8節 海洋関連産業						
								l					

学科・コース	普遍	重科	教科・科目	水產	Ĕ・ 7.	k産海洋基礎	教科担任	阪本	貴亮				
学 年	必修/選択	単 位	授業時数	使用教	科書	「水	産海洋基礎」	文部科学省					
1	必修	1	35	補助教	教材 なし								
指導	目標	において必要 と (1) 水産業や海 もに、	こなる基礎的な資 非洋関連産業の国連する技術を見 非洋関連産業全体 も的に解決するで な水産業や海洋関 な態度を養う。	資質・能力 国民生活に 身に付ける 本を広い被 力を養う。	」を次 こおける よう 野で:	験的な学習活動を行うのとおり育成することる社会的意義や役割なにする。 捉え課題を発見し、水を目指して自ら学び、	∠を目指す。 ∢どについて体系 〈産業や海洋関連	的・系統的に型 産業に関わる都	里解する 皆として	Sとと C合理			
指導上 <i>0</i> .	・安全には十分に留意する 指導上の留意点 評価の観点												
 評 価													
知識・		40											
 思考・判	 断・表現	30	 実習授業の取組状況やレポート提出										
主体的に学習に	取り組む態度	30	実習中の態度										
			-	指 導	計	画							
		前 期					後 期						
月	授 業 予 定	下内容 実		当実施	月	授 	業内容	 毛 施	配当	実施			
	」、 E /テーション	*		2	10	J, Æ	7						
5 海洋実習	7			3	11								
6 水産物の	<u></u> 加工			7	12								
	デ生物の採集			3									
7					1								
8					2								
9 体験乗	台		1	5	3								
		計	3	5			<u>;</u> 計		0				

学科	・コース	普遍	 通科	教科	・科目	水産・水産海洋基礎(実習)							
:	学年	必修/選択	単位	授業時数	使用教科書	「水産海洋基礎」全国高等学校水産教育研究会編・海文堂							
	1	必修	1	35	補助教材	なし							
科	目 0	D 目 標	礎的な資質・能力を (1) 水産業や海洋関 身に付けるよう (2) 水産業や海洋関 る力を養う。	と次のとおり育成する 別連産業の国民生活に うにする。 別連産業全体を広いる	方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業において必要となる基次のとおり育成することを目指す。 重産業の国民生活における社会的意義や役割などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術をにする。 重産業全体を広い視野で捉え課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決す 業や海洋関連産業の構築を目指して自ら学び、地域の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。								
到		的 な ⁄ ベ ル	(2) 水産業や海洋 過程を説明する	関連産業に関わる者。 5 ことができる。 業や海洋関連産業 <i>0</i> ぎる。	として水産業や海	養や役割などについての基礎的・基本的な知識や技術が身についている。 羊関連産業に関する課題を自ら発見し、前向きに解決方法を導き,その 自ら進んで学び、身に着けた知識や技術を地域の振興や社会貢献に活用							
評価の割合(%) 評価の方法													
	知識・		40			まる							
		· 断・表現	30	美国技業の現代ができます。 実習授業の取組状況やレポート提出									
		 -取り組む態度	30	美国1000000000000000000000000000000000000									
月			前 期		月	後期							
4	オリエン	テーション			10								
5	海洋実習	(漕艇)			11								
6		ロエ (あげかま) 物の採集 (磯採集)			12								
7	海洋実習				1								
8	海洋実習	③(水泳)			2								
9	体験乗船:	実習			3								

学科	・コース	海洋資源	科・生産	教科・科目	水	産・	総合実習	教科担任	山本健力	总郎				
学	年	必修/選択	単 位	授業時数	使用教	科書		なし	J					
	2	必修	3	105	補助教	牧材		なし	J					
ŧ	旨 導	目標	るようにする。 (2) 水産や海洋 解決する力を割 (3) 水産や海洋	手の各分野に関す 養う。 手の各分野に関す	する課題を	発見	し,水産業や海洋隊	関連産業に関わ [。] D活用を目指し ⁻	もに,関連する技術 る者として合理的か て自ら学び,水産業	つ創造	造的に			
ţ	・実習時の安全には十分に留意する。 ・チームティーチングを有効に利用する。 指導上の留意点 評価の観点													
	評価の観点													
Ē	平 価 	の割る	含 (%)					, 方 法 ————						
		· 技能	40				ョノートおよび! 							
		断・表現 	30			実 	ョノートおよび! 		よる 					
主体的	りに学習に	こ取り組む態度	30	<u> </u>	上、学	=1	授業の観察	祭による 						
					当 導	計	画		-					
			前 期 内容				#	後						
月		予定	実	 施	当実施	月	·····································	X	」 実施	配当	実施			
4	海洋漁業到	ミ習・資源増殖実習		4	4	10	海洋漁業実習・資源増殖	実習		8				
<u></u> 5	海洋海業3	 『習・資源増殖実習		1	.0	11	 資源増殖実習			8				
	/4/T/////					11								
6	海洋漁業乳	ミ習・資源増殖実習		1	.0	12	資源増殖実習			6				
	W-14	by the same state of the same					次活描注去39							
7	海洋漁業乳	ミ習・資源増殖実習		1	.0	1	資源増殖実習			6				
8	ダイビン	ング実習			3	2	漁業乗船実習			6				
9	漁業乗£	船実習 		2	26	3	漁業乗船実習 			3				
			計	6	58			<u>;</u> 計		37				
					<u> </u>					l				

・コース	海洋資源	科・生産				水産・総合実習							
学年	必修/選択	単位	授業時数	使用教	科書	なし							
2	必修	3	105	補助教	枚材	なし							
目 の)目標	次のとおり育成する (1) 水産や海洋の名 (2) 水産や海洋の名 (3) 水産や海洋の名	5ことを目指す。 分野について総合的 分野に関する課題を 分野に関する総合的	分野について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 分野に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 分野に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的									
-		(2) 水産や海洋 る。 (3) 水産や海洋	の各分野に関する の各分野に関する のために主体的が	る課題を自る総合的なかつ協働的	知識と	記し、合理的かつ創造的に解決し、その過程を説明することができ と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の 用することができる。							
評 価	の割合	(%)				評価の方法							
知識・	技能	40		実習ノートおよび授業の観察による									
思考・判	 断・表現	30	実習ノートおよび授業の観察による										
的に学習に	取り組む態度	30	授業の観察による										
			学 習 内 容										
	İ	前 期			月	後期							
海洋漁業実	習・資源増殖実習				10	海洋漁業実習・資源増殖実習							
海洋漁業実	習・資源増殖実習				11	資源増殖実習							
海洋漁業実	習・資源増殖実習				12	資源増殖実習							
海洋漁業実	習・資源増殖実習				1	資源増殖実習							
ダイビン	/グ実習				2	漁業乗船実習(準備)							
漁業乗船実習	(短期乗船実習)				3	漁業乗船実習(準備)							
	学年 2 書 事 事	学年 必修/選択 2 必修 3 必修 3 おい を である は である は である は である は である は である は である ままままままままままままままままままままままままままままままままままま	学年 必修 選択 単位 2 必修 3 ***********************************	学年 必修 選択 単位 授業時数 105	学年 必修 選択 単位 授業時数 使用教 2 必修 3 105 補助す 水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な子次のとおり育成することを目指す。 (1) 水産や海洋の各分野について総合的に捉え体系 (2) 水産や海洋の各分野に関する総合的な知識と技かつ協働的に取り組む態度を養う。 (3) 水産や海洋の各分野に関する総合的な知識と技かの協働的に取り組む態度を養う。 (3) 水産や海洋の各分野に関する総合的な温 (2) 水産や海洋の各分野に関する総合的な温 (2) 水産や海洋の各分野に関する総合的な温 (3) 水産や海洋の各分野に関する総合的な温 (4) 水産や海洋の各分野に関する総合的な温 (5) 水産や海洋の各分野に関する総合的な温 (5) 水産や海洋の各分野に関する総合的な温 (5) 水産や海洋の各分野に関する総合的な温 (5) 水産や海洋の各分野に関する総合的な温 (5) 水産や海洋の各分野に関する総合的な温 (5) 水産や海洋の各分野に関する総合的な温を (5) 水産や海洋の各分野に関する総合的な温を (5) 水産や海洋の各分野に関する総合的な温を (5) 水産や海洋の各分野に関する総合的な (5) 水産や海洋の各分野に関する総合的な (5) 水産や海洋の各分野に関する総合的な (5) 水産や海洋の各分野に関する総合的な (5) 水産や海洋の各分野に関する総合的な知識と技 (5) 水産や海洋の各分野に関する総合的な知識と技 (5) 水産や海洋の各分野に関する総合的な知識と技 (5) 水産や海洋の各分野に関する総合的な (5) 水産や海洋の各分野に関する (5) 水産・海洋の各分野に関する (5) 水産・海洋の子の・海洋の各分野に関する (5) 水産・海洋の・海洋の各分野に関する (5) 水産・海洋の・海洋の・海洋の・海洋の・海洋の・海洋の・海洋の・海洋の・海洋の・海洋の	学年 必修 選択 単位 授業時数 使用教科書 2 必修 3 105 補助教材 水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動、次のとおり育成することを目指す。 (1) 水産や海洋の各分野に口いて総合的な捉え体系的・系(2) 水産や海洋の各分野に関する認色を発見し、水産業や							

学科	・コース	海洋資源	科・生産	教科・科目		水産	・漁業	教科担任	鶴岡	理				
学	年	必修/選択	単 位	授業時数	使用教	科書		「漁業」文	部科学省					
	1	必修	1	35	補助教	牧材		なし	J					
#	旨 導	目標	(2)漁業に う. (3)漁業に 主体的かつ協	関する課題を おける生産性の 働的に取り組	発見し, の向上を む態度を	漁業学 目指し 養う.	解するとともに, E産に関わる者と Jて自ら学び, 水	して合理的か 産業や海洋関	つ創造的に解決。	するカ [;]	を養			
#	・教科書の内容に留まらず,最新の研究成果や時事問題を積極的に取り入れる ・必要に応じ科目内実習を取り入れる 指導上の留意点 ・													
	評価の観点													
Ē		の割る	含(%)				評価の	方法						
	知識。	· 技能	40		定期考査による. 									
思	考・判	断・表現	30	定期考査による.										
主体的	りに学習に	こ取り組む態度	30				授業中の観察	琴による.						
				打	旨 導	計	画							
		Ē	前 期					後其	月					
月		授 業 予 定	内容	 施	当実施	月	予 定	受業内	容 実 施	- 超当	実施			
4	第1章	漁業と水産生物			2	10	第3節 漁場と漁場	易調査		5				
	第1節 🤅	魚業の意義と沿革												
5					3	11	定期考査			4				
		- 地 - 本				-12								
6		·期考查 			4 	12				3				
7	第2節 海	洋環境と生物生産		4	4	1	第4節 海の環境	 記保全		2				
8					2	2	定期考査			2				
9	<u></u>	期考查			2	3				2				
			<u></u> 計	1	.7			<u></u> 計		18				
			D1	1	. /			п		10				

							1							
学科・	コース	海洋資源	科・生産	教科	・科目 		水産・漁業							
学	年	必修/選択	単位	授業時数	使用教	科書	「漁業」文部科学省							
	1	必修	1	35	補助教	效材	なし							
科	目の	D 目 標	の通り育成する ①漁業について ②漁業に関する	ことを目指す。 体系的・系統的 課題を発見し、; 生産性の向上を	本系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 課題を発見し、漁業生産に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 E産性の向上を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に ほう。									
		的 なノベル	②漁業に関する③漁業における	生産性の向上を	し,前向き 目指して自 る。	きに解 注 目ら学で	決方法を導き、その過程を説明することができる。 び,身に付けた知識や技術を水産業や海洋関連産業の振興や社会貢							
	/		(2.1)	評	評価の観点									
		の割合	1				評価の方法 							
		·技能 	40	定期考査による. 										
		断・表現 	30				定期考査による. 							
主体的	りに学習に	こ取り組む態度	30	授業中の観察による.										
					学 習	内	容							
月			前期			月	後期							
4	第1章	漁業と水産生物				10	第3節 漁場と漁場調査							
ģ	第1節	漁業の意義と沿	Ĕ											
5						11	定期考査							
6	定	三期考査				12								
7	第2節	海洋環境と生	 物生産			1 第4節 海の環境保全								
8						2	定期考査							
9	;;	三期考査				3								
9	, L	_제:'う묜				,								

学科	科・コース 海洋資源科・生産 教科・科目			水産	・漁業	教科担任	鶴岡	理						
学	年	必修/選択	単 位	授業時数	使用教	科書	「漁業」文部科学省							
	2	必修	2	70	補助教	対材	なし							
拤	旨 導	目標	(2)漁業に う. (3)漁業に	関する課題を	発見し, :	漁業生 目指し	驿するとともに, E産に関わる者と Jて自ら学び, 水	して合理的か	つ創造的に解決	するカ	を養			
#	・教科書の内容に留まらず,最新の研究成果や時事問題を積極的に取り入れる ・必要に応じ科目内実習を取り入れる 指導上の留意点 評価の観点													
<u> </u>	平 価		⋚ (%)				評価の	方法						
		· 技能	40				定期考査(こよる.						
思	考・判 	断・表現	30				定期考査(こよる. 						
主体的	りに学習に	こ取り組む態度	30				授業中の観察	察による.						
				ŧ	旨導	計	画							
		Ē	前 期					後其	月					
月		授 予 定	内容実	 施	当実施	月	予 定	受業内	容 実 施	- 配当	実施			
4	第1章	漁業と水産生物		Ţ	5	10	第2章 水産資源と漁	業管理		10				
	第3節	漁場と漁場調査					第1節 水産資	4						
5				!!	5	11	定期考査			10	ļ			
		·				12								
6		- 州与且			.0	12				5				
7	第4節	海の環境保全			5	1	第2節 漁業管	理		2				
	712 I IAI3	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					712 - AII -			+				
8					5	2	定期考査			3				
	~~~~													
9	定 	期考查			5	3				5	ļ			
			<u></u> 計		15					35				
			D I	3	ا د			őΙ		ا عن				

学科・	コース	海洋資源	科・生産	教科	・科目		水産・漁業				
学	年	必修/選択	単位	授業時数	使用教	<b>対書</b>	「漁業」文部科学省				
	2	必修	2	70	補助	教材	なし				
科	目の	D 目 標	<ul><li>の通り育成する</li><li>①漁業について</li><li>②漁業に関する</li></ul>	ことを目指す。 体系的・系統的 課題を発見し、 生産性の向上を	]に理解す 漁業生産	るとと <del>1</del> に関わる	な学習活動を行うことなどを通して、漁業に必要な資質・能力を次 らに、関連する技術を身に付けるようにする。 る者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 が、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に				
ළ 到 		的 な ⁄ ベ ル	l	課題を自ら発見 生産性の向上を することができ	し,前向 :目指して :る。	きに解 <b>※</b> 自ら学で	央方法を導き、その過程を説明することができる。 が,身に付けた知識や技術を水産業や海洋関連産業の振興や社会貢				
		 i の 割 合	(%)	計	———	<i>O</i> 種	^児				
	知識・		40								
 思		 断・表現	30	定期考査による.							
主体的	 りに学習に	 こ取り組む態度	30								
				·							
月			前 期			月	後期				
4	第1章 注	漁業と水産生物				10	第2章 水産資源と漁業管理				
4	第3節	漁場と漁場調査					第1節 水産資源				
5						11	定期考查				
6	定	期考查				12					
	tota a tota						<u>ατι ο ατι να </u>				
7	第4節 )	海の環境保全				1	第2節 漁業管理				
8						2	定期考査				
0							<b>厂</b> (村)"つ旦				
9	定	期考査				3					
	~	, <b>-</b>									

学科	・コース	海洋資源	科・生産	教科・科目		水産	・漁業	教科担任	鶴岡	理				
学	年	必修/選択	単 位	授業時数	使用教	科書								
	3	必修	2	60	補助教	牧材								
#	旨 導	目標	(2)漁業に う. (3)漁業に	関する課題を	発見し, の向上を	漁業生 目指し	E産に関わる者 と して自ら学び, オ	∠して合理的か	を身に付けるよう つ創造的に解決 連産業の振興や	するカ	を養			
#	・教科書の内容に留まらず,最新の研究成果や時事問題を積極的に取り入れる ・必要に応じ科目内実習を取り入れる 指導上の留意点													
				············· 評	価 0	D	見点							
Ē		の割る	含 (%)				評価の	方法						
	知識・	技能	40				定期考査	による.						
思	考・判	断・表現	30		定期考査による.									
主体的	りに学習に	取り組む態度	30	授業中の観察による.										
				指導計画										
		Ē	前 期					後	<b>阴</b>					
月		授 業 予 定	内 容 実	酉	当実施	月	予定	授業内	容 実 施	- 配当	実施			
4						10			7 4 112	10				
5						11	第2節主な漁業と資			10				
	第2条3	魚業の技術				12	定期考查							
6		黒栗の技術			0	12				5				
7		期考査			5	1	定期考査			5	<b></b>			
										<del></del>				
8				į	5	2								
9	定	湖考查		1	0	3								
			<u>=</u> ⊥					=±		1-55				
			計	3	0			計		30				

						Τ				
学科・コー	ス 海洋資源	科・生産	教科	・科目		<b>기</b>	K産・漁業			
学年	必修/選択	単位	授業時数	使用教	科書	「漁	業」文部科学省			
3	必修	2	60	補助教	牧材		なし			
科目	の目標	の通り育成する ①漁業について ②漁業に関する ③漁業における 取り組む態度を	ことを目指す。 体系的・系統的 課題を発見し、 生産性の向上を 養う。	に理解する 魚業生産に 目指して自	るととも 二関わる 目ら学で	は学習活動を行うことなどを ちに、関連する技術を身に付 る者として合理的かつ創造的 が、水産業や海洋関連産業の	けるようにする。 に解決する力を養う。			
	售 的 な レ ベ ル	②漁業に関する ③漁業における	生産性の向上をI することができ	し,前向き 目指して自 る。	きに解決 目ら学び	央方法を導き、その過程を説 が,身に付けた知識や技術を:		興や社会貢		
			評	価 0	D 種					
	価の割合	,				評価の方法	法 			
	哉・技能 <i></i>	40				定期考査による. 		**********		
思考・ 	判断・表現 	30	定期考査による. 							
主体的に学	習に取り組む態度	30	授業中の観察による.							
			学 習 内 容							
月		前 期			月	後	期			
4					10					
5					11	第2節主な漁業と資源地				
						定期考査				
6 第3章	が	」 3節漁具と漁	法		12					
7	定期考査				1	定期考査				
8					2					
9	定期考査				3					
				1		I				

学科	・コース	海洋資源	科・生産	教科・科目	水	産・	課題研究	教科担任	籾山智i	哉			
学	年	必修/選択	単 位	授業時数	使用教	科書	なし						
	3	必修	2	70	補助教	か教材 なし							
(1) 水産や海洋の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられたはおようにする。 (2) 水産や海洋に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として解決策を探究根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に働的に取り組む態度を養う。 ・安全には十分に留意する											≦的な		
ł	・安全には十分に留意する. 指導上の留意点												
				<u>評</u>	価 0	)	朗 点 ————————————————————————————————————						
Ē		の割る					評価の		· =				
		· 技能	40				ョノートおよび技						
		断・表現	30	-		天1	ョノートおよび打 						
土14年	りに子首に	こ取り組む態度	30	<u> </u>	旨 導	計	授業の観察	<u> </u>					
		Ē	 前 期		H <del>()</del>				 I				
			内容				挡	受業内	容		15		
月		予 定	実	施	当   実施	月	予定		実施	配当	実施		
4	ļ					10	発表会 			5			
5	 					11	<u> </u>						
	<b> </b>												
6		ーション, 斑決め		1	.5	12							
	テーマジ												
7	調宜, 研究,	実験,作品制作		]	.5	1							
8	調査,研究,	実験,作品制作			.0	2							
9	調査,研究,	実験,作品制作		1	.5	3							
*****	<b></b>		<u></u> 計		55					5			
					J					-			

学科	・コース	海洋資源	科・生産	教科	· 科目		 水産・課	題研究(SP	)
ź	学年 必修/選 3 必修		単位	授業時数	使用教科書			なし	
	3	必修	2	70	補助教材			なし	
科	目(	の目標	能力を次のとおり看 (1) 水産や海洋の (2) 水産や海洋に る力を養う。	所成することを目指す各分野について体系 関する課題を発見し	す。 終的・系統的に理解 ル,水産業や海洋関	するとともに _。 連産業に関わ	, 相互に関連付けられた る者として解決策を探究	え産業の発展を担う職業。 こ技術を身に付けるように にし、科学的な根拠に基立 こ主体的かつ協働的に取り	こする。 びいて創造的に解決す
到		的 な	(2) 水産や海洋 拠に基づいて創	羊に関する課題を 造的に解決する。 決する力の向上を できる。	を自ら発見し, だことができる。 を目指して自ら	k産業や海洋 学び,水産業	羊関連産業に関わる	識と技術を身に付け 者として解決策を探 振興や社会貢献に主	究し, 科学的な根
	■亚 /邢	 i の 割 合	(%)	計	価 の :		 価 の 方 法	±	
		· 技能	40				および授業の観		
 J	 思考・判	断・表現	30		 身	 ミ習ノート	 および授業の観	 察による	
 主体	 的に学習(	 こ取り組む態度	30			 授	 業の観察による		
				:	学習内	容			
月		į	前 期		月		後	期	
4					10	発表会			
5					11				
	ļ		TITAL . I						
6		ンテーション, 	斑沢め		12				
7	テーマ決定 7 調査,研究,実験,作品制作				1				
	The state of the s								
8	調査,和	研究,実験,作	F品制作		2				
9	調査,和	研究,実験,作	F品制作		3				

学科・コ-	-ス 海洋資源	科・調理	教科・科目	水	産・	課題研究	教科担任	鶴岡	理	
学生	F 必修/選択	単位	授業時数	使用教	科書					
3	必修	2	70	補助教	材		なし	,		
指	導 目 標	けるようにする (2) 水産や海 根拠に基づいる	る。 詳に関する課題 C創造的に解決 決する力の向上	!! !を発見し する力を書	, 水産 養う。	系統的に理解すると 音業や海洋関連産業 ら学び,水産業や海	に関わる者とし	って解決策を探究(	し, 科学	学的な
・安全には十分に留意する. 指導上の留意点										
			···············	価 の	)					
	価の割る						方法			
	識・技能 	40				ョノートおよび投 				
	· 判断・表現 	30			実習	ョノートおよび技 		よる <del></del>		
主体的に覚	学習に取り組む態度	30				授業の観察	<b>薬による</b>			
			<u></u>	旨 導	計	画				
		前期					後期			
月	授 業 	大 容 実	配	当実施	月		受業内?	容 ····································	-	実施
4 オリコ	アー <b>ル</b> ニンテーション, 斑決め	天		5	10	発表会		天 心	15	
	·マ決定	<del></del>		-					+	
	研究,実験,作品制作	<del> </del>	1	.0	11					
6 調査,	研究,実験,作品制作		1	.0	12					
				<del>_</del>						
7 調査,	研究,実験,作品制作		1	.0	1					
8 調査,	研究,実験,作品制作		<u>_</u>	.0	2					
₩ ¹ 9 년 /	NOW THERMIT								+	
9 調査,	研究,実験,作品制作		1	.0	3		<del></del>		·	
		計	5	5			計		15	

学科・コース	海洋資源	科・調理	教科	・科目		水産・課題研究					
学年	必修/選択	単位	授業時数	使用教科書		なし					
3	必修	2	70	補助教材		なし					
標準	の 目 標 的 ベ ル	職業人として必 (1) 水産や海 うにする。 (2) 水産や海 基づいて創造的 (3) 課題を解 取り組む態度を (1) 水産や海 (2) 水産や海 拠に基づいて創	要な資質・能力を対している。   幸に関する課題をは解決する力を対して解決する力の向上を養う。   幸の各分野についまに関する課題を造的に解決する。	を次のとおり育成 いて体系的・系統 発見し、水産業 養う。 を目指して自ら学 いて相互に関連付 を自ら発見し、か ことができる。	成することを目指す。  おいに理解するとともに  や海洋関連産業に関われる。  が、水産業や海洋関連  けられた基礎的・基本  な産業や海洋関連産業に	などを通して、社会を支え こ、相互に関連付けられた打 つる者として解決策を探究し 車産業の振興や社会貢献に当 本的な知識と技術を身に付け こ関わる者として解決策を打 車産業の振興や社会貢献に当	支術を身に付けるよ 」、科学的な根拠に 上体的かつ協働的に けている。 深究し、科学的な根				
			評	価の額	見 点						
評価	あの割合	(%)			評価の方法						
知識 	・技能 	40		実 	習ノートおよび授	業の観察による 					
思考・判 	l断・表現 	30		実 	習ノートおよび授 	業の観察による 					
主体的に学習( 	こ取り組む態度	30			授業の観察	による 					
			<u>:</u>	学習内							
月		前 期 ————		月		後 期 ————————————————————————————————————					
	ンテーション,	斑決め		10	発表会 						
テーマ											
5 調査, 7	研究,実験,作	F品制作		11							
6 調査,在	研究,実験,作	F品制作		12							
7 調査, 6	研究,実験,作	F品制作		1							
8 調査, 程	研究,実験,作	F品制作		2							
9 調査, 전	研究,実験,作	F品制作		3							

## 令和3年度 「総合的な探究の時間」年間計画【1年】

	学年 探究課題				1	年	
扌	<b>架</b> 究	課題		コア	①防災	②健康安全	③キャリア
月	日	曜日	時数	内容	内容	内容	内容
	12	月	2	オリエンテーション	事前指導【疑問の整理】		
4	13	火	4		防災センター見学		
	20	火	1		事後指導【新たな疑問】		
	27	火	1	労基法を読んでみる			
	11	火	1			事前指導【危険予知トレーニング】	
	12	水	1			交通安全教室	
5	18	火	1			事後指導【外部に発信するには】	
	19	水	1				進路オリエンテーション
	25	火	1	リーディングスキルテスト(RST)			
	8	火	1	防災文章化①			
	15	火	1	防災文章化②+避難訓練に向けて			
6	中旬		2		春季避難訓練		
	22	火	1		事後指導【自他の命を守るため】		
	29	火		接続詞①			
	7	火	1	接続詞②			
7	8	木	2				企業実習報告会
	9	金	1				レディネステスト
	27	火	1	コミュニケーション・夏課題			
8	24	火	1	キャリア			
-	16	木		防災レポート①			
9	21	火		防災レポート②			
	28	火	1	防災レポート③			
	?		1		秋季避難訓練		
10			2				進路相談会
	26		1				求人票に載っていること①
		火	1				求人票に載っていること②
		火	1			事前指導【不適切投稿とコミュニケーション】	
11			1			ネットトラブル防止・防犯教室	
<u> </u>	24		1				求人票の比較①
	30		1				求人票の比較②
	7	火	1				求人票の比較③
12			1				求人票比較の発表(グループ)
	21		1				求人票比較の発表(クラス)
1			1				6社求人比較発表資料作り①
$\square$	25	_	1				6社求人比較発表資料作り②
2	1	火	1				6社求人比較発表資料作り③
$\square$	8	火	1				各クラスで発表
	7	月	1				職業講話
-	15	_	1				学年で発表
	23	火	1	2年生に向けて			

## 令和3年度 「総合的な探究の時間」年間計画【2年】

15 火 1   企業への電話連絡①   企業への電話連絡②   企業実習事前指導   企業実習事前指導   企業実習1日目   企業実習2日目   企業実習3日目   企業実習4件成①②   企業実習4件成②④   企業実習4件成②④   企業実習4件成③④   企業実習4件成③④   企業実習4件成③⑥   企業実習4年成   企業   企業を受益を受ける   企業を受ける   企業を使じる   企		学年 探究課題				2年		
4       15 木 1 1 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		探究	課題	Į	コア	キャリア	進路ガイダンス	防災
4         22 末 1 自分を見つめ直す (長所と頃所)         身上書作成①           5         11 火 1         身上書作成②           7 火 1         リーディングスキルテスト (RST)         本校の進路報号と連絡来限に向けて           中間 2         企業への電話連絡②         番季遊難訓           17 木 1         企業への電話連絡②         企業実践事前指導           23 火 1         企業実践目目目         企業実践日目           24 木 6         企業業選3日目         企業実践日目           25 金 6         企業業3日目         企業業費3日目           29 火 1         私状作成②         表表資料作成③⑥           30 水 2         発表資料作成③⑥         企業実践部結会           1 木 2         発表資料作成⑤⑥         企業実践部結会           2 金 2         発表資料作成⑤⑥         企業実践部結会           10 次 1         本 2         提路相談会           2 2 次 6         ディズニアカテミー         機合資料作成②           10 水 1         報告資料作成②         銀路資料作成②           11 木 2         報告資料作成②         通路通性検査           12 水 1         自己 P R を深める         自己 P R を深める           12 木 1         自己 P R を交流する         小論文・作文指導           3 18 木 1         3年生に向けて         小論文・作文指導	月	日	曜日	時数	内容	内容	内容	内容
22 末 1   自分を見つめ直す (長州と原門)   9上書作成①   1 次 1   1 次 1   9上書作成②   9上書作成②   1 次 1   1 次 1   9上書作成②   1 次 1   1 次 1   1 次 1   9上書作成②   1 次 1   1 次 1   1 次 1   1 次 1   1 次 1   1 次 1   1 次 1   1 次 1   1 次 1   1 次 1   1 次 1   1 次 1   1 次 1   1 次 1   1 次 1 次	1	15	木	1	オリエンテーション【振り返りと見通し】			
5         11 火 1         身上密作成②           13 木 1         リーディングスキルテスト (R S T)         本及の連絡指導と進格実現に向けて           7 火 1         本及の連絡指導と進格実現に向けて           6 円 2 2         企業への電話連絡①           17 木 1         企業への電話連絡②           23 火 1         企業実習1日目           24 木 6         企業実習3日目           25 金 6         企業実習3日目           28 月 1         礼状作成②           30 水 2         発表資料作成②②           7 支 金 2         発表資料作成③④           2 金 2         発表資料作成⑤⑥           8 木 2         企業実習報告会           14 水 1         基絡資料作成⑥⑥           2 2 金 2         発表資料作成⑥⑥           8 木 2         企業実習報告会           10 7 1         事前指導           2 火 6         ディズニーアカデミー           8 月 1         最告資料作成②           10 水 1         報告資料作成②           11 木 2         報告資料作成②           12 水 1         報告資料作成③           11 木 2         報告資料作成③           12 水 1         電景資料作成③           12 水 1         電告資料作成④           12 水 1         電告資料作成④           12 水 1         電告資料作成④           12 次 5         金           12 本 1         電告資料作成④ <td>4</td> <td>22</td> <td>木</td> <td>1</td> <td>自分を見つめ直す【長所と短所】</td> <td></td> <td></td> <td></td>	4	22	木	1	自分を見つめ直す【長所と短所】			
13 木 1		6	木	1		身上書作成①		
13 木 1	5	11	火	1		身上書作成②		
7 火 1         本校の進路相等と連絡実現に向けて           6 2         企業への電話連絡①           17 木 1         企業への電話連絡②           23 火 1         企業業31日目           24 木 6         企業業33日目           25 金 6         企業業33日目           28 月 1         礼状作成①           29 火 1         礼状作成②           30 水 2         発表資料作成③②           2 金 2         発表資料作成③③           8 木 2         企業実習報告会           1 木 2         発表資料作成⑤⑥           8 木 2         企業実習報告会           10 ? 1         単路相談会           20 次 6         ディズニーアカデミー           8 月 1         報告資料作成②           11 表 2         報告資料作成②           10 水 1         報告資料作成③③           11 表 2         報告資料作成③           12 末 1         電路資料作成③⑤           12 表 1         電路資料作成⑥⑤           12 末 1         自己PRを深める           1 22 木 1         自己PRを突続する           2 7 月 2         小論文・作文指導           3 18 末 1         3年生に向けて		13	木	1		身上書作成③		
中号     2     一年     春季避難訓練       15     火 1     企業への電話連絡①     (企業への電話連絡②       23     火 1     企業実習事前指導     (企業実習1日目       24     木 6     企業業習2日目     (企業業習3日目       25     金 6     企業業習3日目     (日本のののののののののののののののののののののののののののののののののののの		27	木	1	リーディングスキルテスト(R S T)			
15 火 1   企業への電話連絡①   企業への電話連絡②   企業実習1日目   企業実習1日目   企業実習1日目   企業実習2日目   企業実習3日目   企業を成立②   企業を成立②   企業を成立③ (企業を成立③ (企業を成立)   企業を成立○ (企業を成立○ (企業をの主)   企業を成立○ (企業を成立○ (企業を成立) (企業を成立○ (企業を成立) (企業		7	火	1			本校の進路指導と進路実現に向けて	
17 木 1   企業への電話連絡②   企業実習事前指導   企業実習1日目   企業実習1日目   企業実習2日目   企業実習3日目   企業実習4件成②   企業実習報告会   企業実習報告会   企業実習報告会   企業実習報告会   企業実習報告会   企業実習報告会   企業実習報告会   企業実習報告会   企業実習報告会   企業を設置を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を		中旬		2				春季避難訓練
23 火 1       企業実習事前指導         24 木 6       企業実習日目         25 金 6       企業実習日目         28 月 1       礼状作成①         30 水 2       発表資料作成①②         7 2       2 金 2       発表資料作成③④         8 木 2       企業実習報告会         14 水 1       様々な職業・働くごとの意義         21 木 2       連路相談会         21 木 2       連路相談会         20 京 1       東京選報告会         21 木 2       連路相談会         22 水 6       ディズニーアカデミー         8 月 1       報告資料作成②         8 月 1       報告資料作成②         11 未 2       報告資料作成③         12 水 1       報告資料作成③         11 未 2       報告資料作成③         12 末 1       自己 P R を済みに向けて「振り取りと自己 P R ]         1 2 末 1       自己 P R を交流する         2 7 月 2       小論文・作文指導         3 18 未 1       3年生に向けて		15	火	1		企業への電話連絡①		
6       23 水 6       企業実習1日目         24 木 6       企業実習2日目         25 金 6       企業実習3日目         28 月 1       礼状作成②         30 水 2       発表資料作成③②         7 名 金 2       金 2         8 木 2       企業実習報告会         14 水 1       様々な職業・働くことの意義         21 木 2       進路相談会         10 ? 1       事前指導         2 火 6       ディズニーアカデミー         8 月 1       報告資料作成②         11 タ 火 1       報告資料作成②         11 水 2       報告資料作成③         11 末 2       報告資料作成③         12 末 1       自己 P R を深める         1  2 1 木 1       自己 P R を交流する         2 7 月 2       小論文・作文指導         3 18 木 1       3年生に向けて		17	木	1		企業への電話連絡②		
24 木 6       企業実習2日目         25 金 6       企業実習3日目         28 月 1       礼状作成①         30 水 2       発表資料作成①②         7       1 木 2       発表資料作成③④         2 金 2       発表資料作成⑤⑥         8 木 2       企業実習報告会         10 ? 1       事前指導         2 火 6       ディズニーアカデミー         8 月 1       報告資料作成②         11 夕 火 1       報告資料作成②         10 水 1       報告資料作成③         11 木 2       報告資料作成④⑤         12 大 1       報告資料作成④⑤         12 大 1       自己 P R を深める         1  2 大		23	火	1		企業実習事前指導		
25 金 6       企業実習3日目         28 月 1       礼状作成①         29 火 1       礼状作成②         30 水 2       発表資料作成③④         7 名 金 2       発表資料作成⑤⑥         8 木 2       企業実習報告会         14 水 1       様々な職業・働くことの意義         21 木 2       進路相談会         10 ? 1       事前指導         2 火 6       ディズニーアカデミー         8 月 1       報告資料作成③         11 夕 火 1       報告資料作成②         11 木 2       報告資料作成③         11 木 2       報告資料作成④⑤         12 木 1       電路資料作成④⑤         12 大 1       金体みに向けて「振り返りと自己PR」         1  2 木 1       自己 P R を交流する         2  7 月 2       小論文・作文指導         3  8 木 1       3年生に向けて	6	23	水	6		企業実習1日目		
28 月 1       礼状作成①         29 火 1       礼状作成②         30 水 2       発表資料作成③④         7 名 2 金 2       発表資料作成⑤⑥         8 木 2       企業実習報告会         10 ? 1       様々な職業・働くごとの意義         21 木 2       進路相談会         20 次 6       ディズニーアカデミー         8 月 1       報告資料作成①         11 9 火 1       報告資料作成②         10 水 1       報告資料作成③         11 木 2       報告資料作成③         12 大 1       自己 P R を深める         1 21 木 1       自己 P R を交流する         2 7 月 2       小論文・作文指導		24	木	6		企業実習2日目		
29 火 1     礼状作成②       30 水 2     発表資料作成③④       1 木 2     発表資料作成③④       2 金 2     発表資料作成⑤⑥       8 木 2     企業実習報告会       14 水 1     様々な職業・働くことの意義       21 木 2     進路相談会       2 水 6     ディズニーアカデミー       8 月 1     報告資料作成①       10 水 1     報告資料作成②       10 水 1     報告資料作成③       11 木 2     報告資料作成③⑤       12 15 水 1     自己 P R を深める       1 28 木 1     自己 P R を交流する       2 7 月 2     小論文・作文指導		25	金	6		企業実習3日目		
30 水 2     発表資料作成①②       7 2 金 2     発表資料作成③④       8 木 2     企業実習報告会       14 水 1     様々な職業・働くことの意義       21 木 2     進路相談会       10 ? 1     事前指導       28 木 1     事前指導       2 火 6     ディズニーアカデミー       8 月 1     報告資料作成①       11 夕 火 1     報告資料作成②       10 水 1     報告資料作成③       11 木 2     報告資料作成④⑤       12 15 水 1     基路適性検査       12 16 木 1     冬休みに向けて【振り返りと自己PR】       1 21 木 1     自己PRを交流する       2 7 月 2     小論文・作文指導       18 木 1 3年生に向けて     小論文・作文指導		28	月	1		礼状作成①		
7       1 木 2       発表資料作成③④         8 木 2       企業実習報告会         14 水 1       様々な職業・働くことの意義         21 木 2       進路相談会         7 1       事前指導         28 木 1       事前指導         2 火 6       ディズニーアカデミー         8 月 1       報告資料作成①         10 水 1       報告資料作成②         10 水 1       報告資料作成③         11 木 2       報告資料作成④⑤         12 15 水 1       進路適性検査         12 16 木 1       冬休みに向けて[振り返りと自己PR]         1 21 木 1       自己PRを深める         自己PRを交流する       小論文・作文指導         3 18 木 1 3年生に向けて       3		29	火	1		礼状作成②		
7       2 金 2       発表資料作成⑤⑥         8 木 2       企業実習報告会         14 水 1       様々な職業・働くことの意義         21 木 2       進路相談会         10 ? 1       事前指導         2 火 6       ディズニーアカデミー         8 月 1       報告資料作成①         10 水 1       報告資料作成②         10 水 1       報告資料作成③         11 木 2       報告資料作成④⑤         12 15 水 1       進路適性検査         16 木 1       冬休みに向けて「振り返りと自己PR】         1 2 木 1       自己PRを深める         1 2 末 1       自己PRを交流する         2 7 月 2       小論文・作文指導         3 18 木 1 3年生に向けて       3年生に向けて		30	水	2		発表資料作成①②		
7       8 木 2       企業実習報告会         14 水 1       様々な職業・働くことの意義         21 木 2       進路相談会         22 木 1       事前指導         2 火 6       ディズニーアカデミー         8 月 1       報告資料作成①         10 水 1       報告資料作成②         10 水 1       報告資料作成③         11 木 2       報告資料作成④⑤         12 行 水 1       を休みに向けて[振り返りと自己PR]         1 会休みに向けて[振り返りと自己PR]       自己PRを深める         1 会株みに向けて[振り返りと自己PR]       中またで表示する         2 7 月 2       小論文・作文指導         3 18 木 1       3年生に向けて		1	木	2		発表資料作成③④		
8 木 2       企業実習報告会         14 水 1       様々な職業・働くことの意義         10 ? 1       2 人 6       ディズニーアカデミー         8 月 1       報告資料作成①         11 9 人 1       報告資料作成②         10 水 1       報告資料作成②         11 木 2       報告資料作成④⑤         12 15 水 1       15 水 1       資本のよります。         1 21 木 1       自己 P R を深める         1 22 木 1       自己 P R を交流する         2 7 月 2       小論文・作文指導	7	2	金	2		発表資料作成⑤⑥		
21 木 2   進路相談会   秋季避難訓練   秋季避難訓練   秋季避難訓練   1   東前指導   秋季避難訓練   2 火 6   ディズニーアカデミー   8 月 1   報告資料作成①   11   9 火 1   報告資料作成②   10 水 1   報告資料作成③   11 木 2   報告資料作成④⑤   11 木 2   報告資料作成④⑤   12   16 木 1   生路適性検査   生路適性検査   16 木 1   自己 P R を深める   自己 P R を交流する   2 7 月 2   小論文・作文指導   18 木 1 3年生に向けて   3   3   3   3   3   3   3   3   3	′	8	木	2		企業実習報告会		
10       ?       1       秋季避難訓練         28       木 1       事前指導         2 火 6       ディズニーアカデミー       報告資料作成①         8 月 1       報告資料作成②         10 水 1       報告資料作成③         11 木 2       報告資料作成④⑤         12       15 水 1       進路適性検査         1 6 木 1       冬休みに向けて「振り返りと自己PR】         2 1 木 1       自己PRを深める         12       7 月 2         3 18 木 1       3年生に向けて		14	水	1			様々な職業・働くことの意義	
28 木 1     事前指導       2 火 6     ディズニーアカデミー       8 月 1     報告資料作成①       11 9 火 1     報告資料作成②       10 水 1     報告資料作成③       11 木 2     報告資料作成④⑤       12 15 水 1     進路適性検査       16 木 1     冬休みに向けて (振り返りと自己PR)       1 21 木 1     自己PRを深める       28 木 1     自己PRを交流する       2 7 月 2     小論文・作文指導       3 18 木 1 3年生に向けて		21	木	2			進路相談会	
11       2 火 6       ディズニーアカデミー         8 月 1       報告資料作成①         10 水 1       報告資料作成③         11 木 2       報告資料作成④⑤         12       15 水 1         16 木 1       冬休みに向けて【振り返りと自己PR】         1 21 木 1       自己PRを深める         1 28 木 1       自己PRを交流する         2 7 月 2       小論文・作文指導         3       18 木 1	10	?		1				秋季避難訓練
8 月 1       報告資料作成①         11 9 火 1       報告資料作成②         10 水 1       報告資料作成③         11 木 2       報告資料作成④⑤         12 15 水 1       資本の方面により返りと自己 P R 1         16 木 1       会体みに向けて (振り返りと自己 P R 1         1 21 木 1       自己 P R を深める         1 28 木 1       自己 P R を交流する         2 7 月 2       小論文・作文指導         3 18 木 1 3年生に向けて		28	木	1		事前指導		
11     9 火 1     報告資料作成②       10 水 1     報告資料作成③       11 木 2     報告資料作成④⑤       12     15 水 1     (条休みに向けて [振り返りと自己PR]       1 会休みに向けて [振り返りと自己PR]       1 21 木 1     自己PRを深める       1 28 木 1     自己PRを交流する       2 7 月 2     小論文・作文指導       3     18 木 1 3年生に向けて		2	火	6		ディズニーアカデミー		
10 水 1     報告資料作成③       11 木 2     報告資料作成④⑤       12		8	月	1		報告資料作成①		
11 末 2   報告資料作成④⑤   進路適性検査     12	11	9	火	1		報告資料作成②		
12     15 水 1     進路適性検査       16 木 1     冬休みに向けて [振り返りと自己PR]       1 21 木 1     自己PRを深める       28 木 1     自己PRを交流する       2 7 月 2     小論文・作文指導       3     18 木 1 3年生に向けて		10	水	1		報告資料作成③		
12     16 木 1     冬休みに向けて [振り返りと自己PR]       1     21 木 1     自己PRを深める       28 木 1     自己PRを交流する       2 7 月 2     小論文・作文指導       3     18 木 1     3年生に向けて		11	木	2		報告資料作成④⑤		
16 木 1     冬休みに向けて [振り返りと自己PR]       1 21 木 1     自己PRを深める       28 木 1     自己PRを交流する       2 7 月 2     小論文・作文指導       3 18 木 1 3年生に向けて	12	15	水	1			進路適性検査	
1     28 木 1     自己 P R を交流する       2 7 月 2     小論文・作文指導       3     18 木 1 3年生に向けて		16	木	1		冬休みに向けて【振り返りと自己PR】		
28 木 1     自己 P R を交流する       2 7 月 2     小論文・作文指導       3 18 木 1 3年生に向けて	1	21	木	1		自己PRを深める		
18 木 1 3年生に向けて		28	木	1		自己 P R を交流する		
3	2	7	月				小論文・作文指導	
	3	18	木	1	3年生に向けて			
22   火   2		22	火	2			面接指導	

## 北海道厚岸翔洋高等学校1年生 科目「水産海洋基礎」学習指導(案)

- 1. 単元名 「基礎実習 水産・海洋生物の採集」(14時間)
- 2. 単元のねらい(目標)

身近な海や内水面での磯採集、釣り、各種網による生物採集を通して、地域や時期による特徴的な水産・海洋生物の生物相や生態に興味をもたせるよう指導するとともに、とる漁業に関する基礎的な知識を深め、資源管理に対する意識を高めること。

## 3. 評価規準

観	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態
点			度
÷π	①様々な生物採集の方	①実習内容を理解し、効	①仲間と協力して作業する
評価	法を理解することがで	率的に作業することがで	ことができる。
規   準	きる。	きる。	②漁業におけるルールを意
<del>1=</del>	②水産生物の生息場所	②安全を意識して作業す	識して行動することができ
	を理解することができ	ることができる。	る。
	る。		
	③地元の水産生物の特		
	徴を理解することがで		
	きる。		

## 4. 指導と評価の計画

小単元名	○学習活動	知	思	態	※指導上の留意点
(時数)	・児童生徒の反応				
磯採集	○干潟における採集	1	1	2	※事前に潮汐や天候
(3時間)	・磯採集の手順を理解し、準備	2			を調べて実施日を決
	ができているか?				定
	・底質を知り、底生生物を採集				※長靴等の準備につ
	できているか?				いて事前指導
	・採集生物の輸送方法を理解し				
	ているか?				
釣りによる	○釣りによる生物採取	1	1	2	※事前に潮汐や天候
採集	・釣り道具を適切に扱い、釣り	2	2		を調べて実施日を決
(2 時間)	糸の結び方などを理解している				定
	カュ?				※必要な道具の確認
	・ルールや周囲を確認し、安全				と餌の準備
	な釣りができているか?				
網による採	○網による生物採集	2	1	1	※事前に潮汐や天候
集	・網漁具の特徴について理解し	3	2	2	を調べて実施日を決
(3時間)	ているか?				定
	・仲間と協力して作業している				※特別採捕の申請
	カュ?				※使用する漁具の状
	・とる漁業と漁業権との関係を				態を確認
	意識しているか?				

採集物の調	○採集物の分類	3	1	※採集した時にでき
査・保存	・体形で分類し、食性との関係			る限り分類
(6時間)	について考察できているか?			
	○採集物の測定			※ノギスなどの使用
	・魚類や魚介類などの各部名称			方法について指導
	を知り、正しく測定することが			
	できるか?			※解剖道具の使用方
	○魚類の解剖			法について指導
	・魚類の解剖の方法を理解し、			
	胃の内容物から食性などの情報			※用途に応じて様々
	を得ることができるか?			な保存方法があるこ
	○採集物の保存			とを指導
	・魚類や軟体動物、海藻などの			※使用する顕微鏡の
	保存方法を理解しているか?			状態を確認
	○顕微鏡による観察			
	・正しい操作手順で観察を行			
	い、記録しているか?			

#### 5. 本時の目標

厚岸町の身近な水産生物を自ら採集し、観察しよう。 「地曳網、磯採集 (コドラート採集)」(2時間)

#### 6. 評価規準

- ・実習の手順を理解し、観察やノートに記録できる。(知①)
- ・実習の手順を実行し、適切な方法で取り組んでいる。(知②)
- ・地曳網を行うにあたり仲間と協力して作業ができる。(知③)
- ・効率よく作業を進めるため、自分で考え、判断して行動できる。(思①)
- ・安全を意識して行動することができる。(思②)
- ・実習前に着実な準備を行い、先を見通した行動ができる。(態①)
- ・観察結果のまとめや後片付けなど自ら進んで行動することができる。(態②)

#### 7. 本時の展開

配時	○学習活動	※指導上の留意点
	・児童生徒の反応	☆外部連携
実習準備、移動	○実習内容の説明	※休み時間のうちに着替
20分	ワークシートの配布	え、生徒作業準備室へ移動
	○長靴を持って移動	☆特別採捕の申請
	○バス乗車、移動	※機材をトラックに積む
磯採集	現地到着(真龍岸壁横)	※安全上の注意
地曳網	・長靴への履き替え	※全体を6班に分けて
6 5 分	○地曳網	前半は
	・漁法について理解しているか	1~3班:底生生物採取
	・網を曳く速度は適切か	4~6班:地曳網

	・網にはどのような生物が入っ	後半は
	ているか	$1 \sim 3$ 班:地曳網
	○分類した上で漁獲数を記録、	4~6班:底生生物採取
	写真撮影	
	・生存しているものは海に帰す	
	○底生生物の採集	
	・方形枠を置き、その範囲を全	
	て掘り返して出てきた生物を全	※班ごとに底質や汀線から
	て採取	の距離など、異なる環境で
	○分類した上で生物数を記録、	調査させる
	写真撮影	
	・道具を適切に使用できている	
	カュ?	
	・効率的かつ協力的に作業して	
	いるか?	
片付け	○撤収作業	
移動	・機材をトラックに積む	※できる限り現地で泥を落
振り返り	○移動	とす
25分	○機材の片付け	※水槽に溜めた水で機材を
	○実習のまとめ	洗う
	・他の班とデータ共有	
	・実習内容と感想をワークシー	※まとめの時間を確保
	トにまとめる	
	・次回の課題について	

## 8. 他教科との関連

○水産科「漁業」「海洋生物」など

## 北海道厚岸翔洋高等学校_2年生_科目「総合実習」学習指導(案)

- 1. 単元名 「海洋漁業実習(地曳き網)」(18時間)
- 2. 単元のねらい(目標)

水産や海洋の各分野について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を 身に付ける。また、課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解 決する力や、産業振興および社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

#### 3. 評価規準

観	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
点			
<b>⇒</b> ∓:	①地曳き網の構造を理	①地曳き網を仕掛ける	①漁労作業を協力して取り組
評価	解している。	ことができる。	むことができる。
規準	②前浜の環境について	②漁獲物の説明ができ	②安全に十分注意して、実習
平	理解している。	る。	に取り組んでいる。
	③漁獲物について理解		③積極的に小中学生との交流
	している。		に参加している。

## 4. 指導と評価の計画

小単元名	○学習活動	知	思	態	※指導上の留意点
(時数)	・児童生徒の反応				☆外部連携
オリエンテ	○「総合実習」における活動の注	1		2	※3 時間連続で実施す
ーション	意事項・留意事項を理解する。				る。
(3時間)	○地曳き網の構造を理解する。				
	・「総合実習」ではどのような実				
	習を行うのか?				
	・地曳き網とはどのような漁具な				
	のか?				
漁労実習	○地曳き網を用いて、漁労実習を	2	1	1	※3 時間連続で実施す
(12 時間)	行う。	3	2	2	る。
	○漁獲物を記録する。				※安全の確保(漁労場所
	・地曳き網はどのように仕掛ける				の選定、天候や潮汐の確
	のか?				認、船舶の保守点検等)
	・どのような生物が漁獲されるの				☆特別採捕許可申請
	カ′ ?				
小学生との	○小学生に地曳き網を安全に体験		2	1	※3 時間連続で実施す
交流	させる。			2	る。
(6時間)	○漁獲物を通して、前浜の環境を			3	※安全の確保(漁労場所
	小学生に解説する。				の選定、天候や潮汐の確
	・安全に地曳き網を体験させるに				認、船舶の保守点検等)
	はどうしたら良いか?				☆交流校との打ち合わせ
	・漁獲物をわかりやすく解説する				
	にはどうしたら良いか?				

## 5. 本時の目標

小学生との交流で、地曳き網漁を安全に体験してもらい、その上で適切に漁労を行う中で、課題を発見し、工夫・協同しながら解決する。(16-18、19-21 時間/21 時間)

## 6. 評価規準

漁獲物の説明ができる。(思②) 漁労作業を協力して取り組むことができる。(態①) 安全に十分注意して、実習に取り組んでいる。(態②) 積極的に小中学生との交流に参加している。(態③)

## 7. 本時の展開

配時	○学習活動	※指導上の留意点
	・児童生徒の反応	☆外部連携
準備	漁労作業に向けた適切な準備をし	※3 時間連続で実施する。
30分	よう。	※安全の確保(漁労場所
	○準備(漁労計画の説明、装備や	の選定、天候や潮汐の確
	器材の準備、船舶の準備等)	認、船舶の保守点検等)
	・前時までで学習した漁労作業を	☆特別採捕許可申請
	予期した動きができているか?	
	・効果的な器材の準備・積み込み	
	ができているか?	
地曳網体験	安全に効果的な漁労作業を行い、	※小学生との交流の中
90分	小学生に地曳き網を体験してもら	で、新たな危険が生じな
	おう。	いように留意する。
	○漁労作業(地曳き網)	☆交流校との打ち合わせ
	○漁獲物を記録する	
	○小学生との交流	
	・前時までで学習した漁労作業を	
	予期した動きができているか?	
	・小学生に分かりやすく、安全に	
	体験させることができているか?	
	・どんな生物が漁獲されている	
	カッ?	
まとめ	適切な器材の保守・整備を行お	※安全の確認(船舶の片
片付け	う。	付け等で危険が生じない
30分	○片付け(装備や器材の洗浄、船	<i>为י</i> )
	舶の洗浄等)	
	○本時の漁労活動の反省	
	・次回以降の実習を念頭に、適切	
	に片付けを行えているか?	
	・本時の活動は効果的に行えた	
	カ・?	
	・次回以降の課題はあるか?	

- 8. 他教科との関連
  - ○水産科「漁業」「海洋生物」など
  - ○理科「生物」「生物基礎」

## 北海道厚岸翔洋高等学校_3年生_科目「課題研究」学習指導(案)

#### 1. 単元名

「調査、研究、実験・作品制作(水産クラブ研究発表大会への取組)」(55時間)

#### 2. 単元のねらい(目標)

水産や海洋の各分野について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を 身に付ける。また、課題を発見し、解決する能力の向上を目指して自ら学び、科学的な根拠に基づ いた創造的な取組を通して、水産業や海洋関連事業に係わる産業振興および社会貢献に主体的かつ 協働的に取り組む態度を養う。

#### 3. 評価規準

観	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む
点			態度
	①水産分野における諸	①実学的な意義を説明で	①研究活動を班員と協同
評	問題について理解して	きる。	して行える。
評価規進	いる。	②研究を通して得られた	②研究テーマの設定に対
準	②研究テーマを自ら設	結果に対して適切な判断	して積極的に関わること
	定できる。	ができる。	ができる。
	③適切な研究計画を立	③研究結果を説明でき	
	てることができる。	る。	

#### 4. 指導と評価の計画

小単元名	○学習活動	知	思	態	※指導上の留意点
(時数)	・児童生徒の反応				☆外部連携
オリエンテ	○「課題研究」における活動	1	1	1	※2 時間連続で実施す
ーション	の注意事項・留意事項を理解	2		2	る。
(2時間)	する。	3			※生徒の思考を阻害し
	○研究テーマを設定する。				ないような適切な情報
	○研究の見通しを立てる。				提供を行う。
	・「課題研究」ではどのような				※班活動が協働的に行
	活動を行うのか?				えるように適切に助言
	・どんな研究活動がしたい				を行う。
	か?				
	・水産分野における問題はど				
	のようなものがあるのか?				
研究活動•	○設定した研究テーマに沿っ	3	1	1	※2 時間連続で実施す
研究発表会	た活動を行う。		2		る。
準備(48 時	○研究発表会に向けた準備		3		※生徒の思考を大切に
間)	(PowerPoint 資料の作成や発				して、適切な情報提供
	表練習等)				を行う。
	・どのような計画で研究を進				※班活動が協働的に行
	めるべきだろうか?				えるように適切に助言
	・得られた結果は何を示して				を行う。
	いるのだろうか?				☆必要に応じて外部と
	・研究の要点や意図を適切に				の連携を行う。(研究成

	伝えるにはどのような準備が 必要だろうか?				果に対する意見を依頼 する・協同研究を行
	2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				う・研究フィールドの
					利用許可等)
研究発表会	○発表会準備やリハーサルを	1	1	1	※5 時間連続で実施す
(5 時間)	行う。		3		る。
	○他班の研究発表を聴く。				
	○自班や他班の研究成果を比				
	較・分析する。				
	・研究の要点や意図を適切に				
	伝えるにはどのような準備が				
	必要だろうか?				
	・他班はどのような研究活動				
	を行っていたのだろうか?				
	・自班や他班の研究成果はど				
	のような意義があるだろう				
	か?				

## 5. 本時の目標

研究発表会を通して、これまでの研究活動の成果をまとめ、他者との情報共有を行うことで、水産分野への理解を更に深めると共に、課題解決の力を養う。

(51-55 時間/55 時間)

## 6. 評価規準

水産分野における諸問題について理解している。(知①)

実学的な意義を説明できる。(思①)

研究結果を説明できる。(思③)

研究活動を班員と協同して行える。(態①)

#### 7. 本時の展開

配時	○学習活動	※指導上の留意点
	・児童生徒の反応	☆外部連携
準備	発表会の準備・リハーサルを	※5 時間連続で実施する。
リハーサル	行おう。	※適切に助言を行い、生
150分	○発表会準備(発表の調整や	徒自らが作り上げた達成
	会場設営)	感を得られるように誘導
	○リハーサル	する。
	・準備は万全かどうか?	
	・他者にとって、分かりやす	
	い発表はできるだろうか?	
研究発表	研究成果の共有を図ろう。○	※それぞれの班の研究成
100分	研究成果の発表	果を比較・分析し、生徒
	○他班の研究成果を聴く	に状況提供を行い、まと
	・自班および他班の研究成果	めの一助とする。
	にどのような意義を見いだせ	☆他学年の生徒も聴講さ

るか?	せ、いずれ自分たちが行
・活動を通して、水産分野に	う研究活動に対する問題
対する問題意識は変化しただ	意識を養わせる。
ろうか?	

- 8. 他教科との関連
  - ○水産科「総合実習」など
  - ○家庭科「調理実習」など

# 海洋教育パイオニアスクールプログラム 完了時自己評価書

**評価実施日** 2022年2月7日

学 活 節 敬 動 衛 名 名 名 者

北海道厚岸翔洋高等学校 2021 年度 「 地域の産業や環境特性と通して、海の仕事の魅力を知る 柴 田 耕一郎

<b>耐電視点毎の即の</b> 「対し タンパンチェク項目のBOX/こチェックをしまった。」	<b>の節値</b> 脚に示いたコメントを置入したください。)	<b>東京</b>
[安当性]		## E
<ul><li>区 今回のテーマと目標の設定は有効でしたか?</li><li>【コメント欄】</li><li>3年間を通して、厚岸町の児童生徒とともに海に親しむ活動を行うことができ、地域の産業を踏まえて海の仕事の魅力を伝えることができた。</li></ul>	区 期待した成果は得られましたか? 【コメント欄】 高校生が普段の授業や実習で学んだ知識を地元の児童・生徒に説明し、地元 の水産の魅力を伝えることができた。	3 3 11年 2 2 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6
<ul><li>区 学習内容の分量は適切でしたか?(無理のない目標・計画でしたか?)</li><li>【コメント欄】</li><li>今までの経験を活かし、本年も事前アンケートを踏まえた活動を計画・展開し、児童生徒の実態に合わせた学習を行うことができた。</li></ul>	区 学習目標と本活動との関連性は明確でしたか? [コメント欄] 水産や海洋の各分野を総合的に捉え、児童・生徒と一緒に活動することで、主 体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。	
<ul><li>□ 内容は対象児童・生徒のレベルに適切でしたか? [コメント欄] 連携する児童・生徒のレベルに合わせた取組を、本校生徒自らが考え、適切に対応することができた。</li></ul>	<ul><li>区 活動は児童・生徒の海洋への関心を高める契機となりましたか? [コメント欄] この活動に参加した児童・生徒の態想から、海の自然への関心を高める契機 となったことを伺える。</li></ul>	持続性
【有効性】  V 内容は計画通りに実施されましたかっ	【神徳性】   活動に必要な/ウハウ・知見・技術等が数音間で共有されていますか?	成果かの名コメンで、殿都
画の変更を余儀なくされることがあった	「コメント欄」 回数を重ねるたびに、教員間でノウハウや技術の共有がみられ、連携が強化された。	
<ul><li>□ 協力要請した外部機関との連絡体制や指導内容は良好/適切でしたか? [コメント欄] -緒に活動した地元の小・中学校の反応は良好で、協力要請した外部機関との連絡体制や指導内容は適切であった。</li></ul>	<ul><li>「中習内容や成果物が適切に活用される(見込み)がありますか?</li><li>「コメント欄】</li><li>海洋教育を取り組む学校の参考となるよう、研究成果をまとめた冊子を発行し、活用してもらう予定である。</li></ul>	
<ul> <li>□ 助成事業に対する地域や保護者からの理解は得られましたか? 実施後に家庭や地域への 知識や情報の広がりが見られますか?</li> <li>【コメント欄】</li> <li>本事業の取組が新聞や町の広報などのメディアに取り上げられ、地域や保護者からの理解が得られた。</li> </ul>	<ul><li>区 学習した内容を継続・応用する仕組みは考慮されていますか? 【コメント欄】 今回の取組を継続して、地元の小・中学校と連携した取組を実施する予定である。</li></ul>	
【効率性】	[信頼性]	
<ul><li>区 学習活動の実施時期は適切でしたか? 【コメント欄】 潮汐や天候の影響で、実施できる期間は限られているが、小・中学校と調整を図り 適切な時期に実施することができた。</li></ul>	<ul><li>☑ 担当教員は学習内容について十分な知識・技術を有していましたか? 【コメント欄】</li><li>本事業の目的を達成するために、事前打ち合わせを密に行い、安全かつ適切に取り組むことができた。</li></ul>	
区   物資・資金・派遣講師(人員)の規模や質は適切でしたか?  [コメント欄]   デジタル機器を活用し、取組の成果について、情報を共有することができた。	<ul> <li>図 実施に当たり、十分な体制が整えられましたか?(教員間連携、安全対策、チェック体制) 【コメント欄】 複数の教員が相互チェックを行い、本事業の安全を確保するとともに、必要に応じて指導のバックアップ体制が整えられていた。</li> </ul>	
<ul> <li>区 実施期間の設定は適切でしたか?(計画内容を設定期間内に終えることができましたか?)</li> <li>「コメント欄】</li> <li>新型コロナウイルス感染症拡大が予想できないため、計画の変更を余儀なくされることがあったが、設定期間内に全て実施することができた。</li> </ul>	<ul><li>図 実施内容について外部公表・発信・共有していますか?</li><li>[コメント欄】</li><li>学校ホームページに活動の様子を掲載するとともに、新聞などの取材を受け、取組内容について広く発信することができた。</li></ul>	